

「ボイスアンサンブル」(2時間扱い)

～題材2『いろいろな音のひびきを味わおう』における(イ)^{*}の指導事項を中心とした音楽づくり

* 音楽づくりのア、イ及びウの各指導事項の(イ)

学習のねらい

- (1) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴や、音のつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 音色、リズム、音の重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの動きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) いろいろな音色が重なって生まれる響きを味わいながら音楽をつくる学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組み、多様な声の表現を楽しむ。

教材や教具

● 「ボイスアンサンブル」二次元コード

● カトカトーン

本学習に取り組む前に、即興的な表現の活動を行う際に活用する。カトカトーンは音色を自由に変えられるため、「ボイスアンサンブル」作品例^{*}（教育芸術社が配布しているktkファイル）で選択されている楽器以外を選択したとき、どのように発音すればその音色に近づけられるかを学級全体で試すことができる。

* カトカトーン
「ボイスアンサンブル」作品例
ktkファイルのダウンロード



(タップまたは読み取り)

主に扱う音楽を形づくっている要素

ア 音色、リズム、音の重なり

イ 音楽の縦と横との関係

評価規準

知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
<p>①知 いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴や、音のつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。</p> <p>②技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>思① 音色、リズム、音の重なり、音楽の縦と横との関係を聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態① いろいろな音色が重なつて生まれる響きを味わいながら音楽をつくる学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

学習の流れ

ステップ1 様々な発音の仕方を試しながら、いろいろな声の響きやそれらの組合せの特徴を捉える。

1 教科書P.22に示されている例の表現の仕方を学級全体で試す。

①	$\frac{4}{4}$	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪ :
(言葉) ツツ タツ ツツ タツ ツツ タツ ツツ タツ									
②	$\frac{4}{4}$	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪ :
(言葉) タン タン タン タン タン タン タン タン									
③	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪ :
(言葉) ドウン ドウ ドウン ドウン ドウ ドウン ドウン ドウン									

はく 拍



このリズムは8ビートと呼ばれる、ドラムセットでよく演奏されるリズムパターンです。ドラムセットで使われる楽器の音色を思い浮かべながら、①から順番に声で演奏してみましょう。

途中で言葉が変わるとこは、音の出し方に気を付けないと全部同じように演奏しちゃいそうだね。



①はハイハットシンバルが8分音符を刻むリズムです。ペダルを踏んだり離したりすることで音色が変えられますよ。発音するときに息を前歯の隙間から鋭く吐き出してみましょう。

結構しっかり息を吐かないと「ツ」って聴こえないね。「タ」で口を開けるから、息がたくさん必要になるよ。



<例1>

T(指導者)→C(子供)全員、T→C1列目、T→C1~5など、人数を変えながら模倣する。



②は小太鼓で2、4拍目を強調するリズム、③は大太鼓で全体を支えるリズムになっています。②の「タン」は鋭く舌を離して、③は口を小さく開きながら声をこもらせるように発音しましょう。

②の「タン」は、①よりはっきりした音から少し低めの声を出すると、小太鼓っぽくなるかな。



③の「ドゥン」は、口をすばめながら低い声を出すと、体の中に声が響いてくるね。



<例2>

- ・①同様、指導者の演奏を模倣しながら各パートを確認する。
- ・学級全体を三つのグループに分けて、①→②→③の順につなげて演奏する。

ポイント

- ・一斉指導で確認する場合、指導者→子供全員という形で進めていくのが一般的ですが、指導者→子供1列ずつ、指導者→子供の列の半分ずつというように人数を変えたり、列ごとにつなげたりするなど形を工夫することで、子供の表現の仕方をより具体的に見取ることができます。

2 教科書P.22の「例」や「言葉の例」などから選んだ言葉を使って、学級全体で合わせる。

<例1> ①→②→③→全パート

ポイント

- ・クラベスやウッドブロックなどの楽器で指導者が拍を打つと、子供の実態に合わせて速さを変えたり合図を出したりすることができます。

<例2> カトカトーンのボイスアンサンブル作品例を用いる。

- ①: 音楽室キット「トライアングル」
→パーカッションキット2「アゴゴー(低)」「アゴゴー(高)」
- ②: 音楽室キット「タンブリン」
→パーカッションキット2「シェーカー」
- ③: 音楽室キット「大太鼓(ぱち)」
→パーカッションキット1「コンガ(低)」

カトカトーン
「ボイスアンサンブル」作品例
ktkファイルのダウンロード



(タップまたは読み取り)



発音が上手になってきましたね。今度は言葉だけ変えてみましょう。
今から流れてくる音色は、どんな言葉で表現できそうかな。



①は「コン」「カン」の2種類の音が聴こえるから、高い声がよさそうだね。

②は①の「ツ」に近いから、「シツ」のほうがよさそう。③は「ポン」とか「ポン」に聴こえるよ。





では、声の高さや口の形など、先ほどの例で意識したことに気を付けながら、
①は「ココカコ ココカコ」、②は「・シュッ・シュッ」、③は「ポン・ボポン・」
と発音してみましょう。違う言葉にすると、響きはどう変わりますか。

ポイント

- ほかの言葉を試すきっかけとして、カトカトーンを使用します。あらかじめ用意されている「作品例」と、音色を変えたものとを比較しながら言葉を考えることもできます。カトカトーンの音色をきっかけに、指導者がほかの言葉の組合せを提示したり、各パートの言葉を入れ替えたりしながら、様々な発音の仕方や言葉の組合せを楽しむようにします。

③ 三人の組になり、声の高さや発音の仕方を工夫しながら即興的にボイスアンサンブルをする。



三人の組に分かれたら①～③を演奏する人をそれぞれ決めます。
前に練習した「ツツツツ」「・タン・」「ポン」などから好きな言葉を選んで合わせましょう。自分で考えたほかの面白い言葉があれば変えてもいいですよ。

<ボイスアンサンブルの例> ※塗りつぶしている箇所を演奏する。

	1回目	2回目	3回目	4回目
①				
②				
③				

8拍分

①: 高い声で「ココカコ ココカコ」

②: 少し低い声で「・タン・」「・」

③: 低い声で「ドゥン・ドゥドゥン・」



さっき試した言葉を組み合わせてみたんですね。
低めの音が二つに増えたけれど、それぞれ発音の仕方が違うので重ねたときに面白いですね。

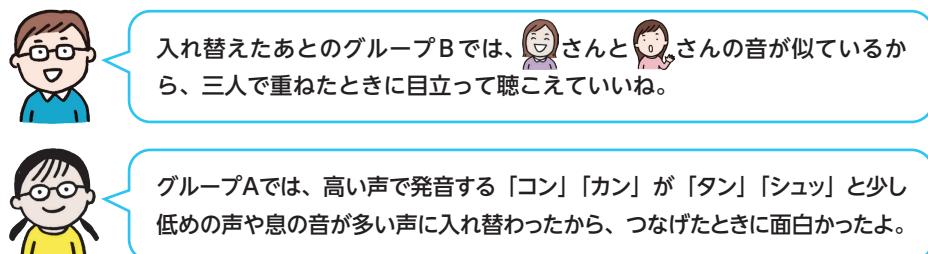
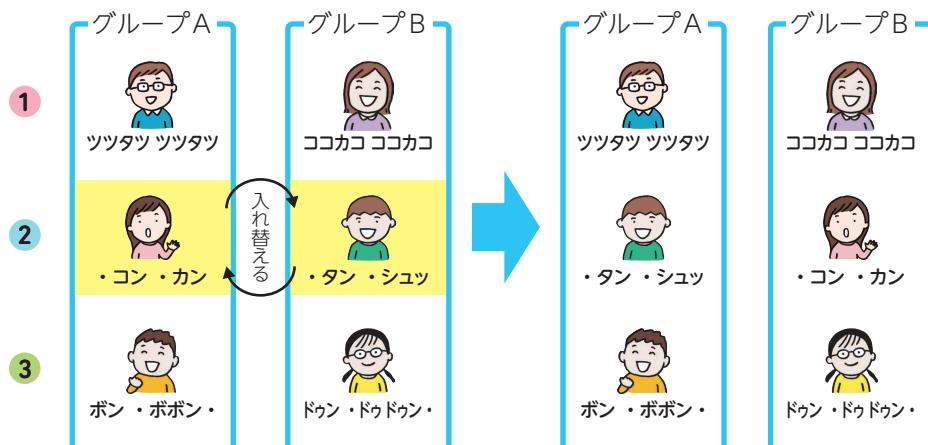
ポイント

- どのような発音の仕方や言葉を選んでいるか、巡回しながら確認します。全員で試した声の組合せと変えているグループの音楽を学級全体で共有しながら価値付けるようにします。



発音の仕方を決めたり新たに考えたりすることができますか。
近くのグループで聴き合ったり、メンバーを入れ替えたりしてみましょう。
新たな響きが見つかったり生まれたりするかもしれませんよ。

<例> おさんと おさんを入れ替えて、グループごとに演奏する。



ポイント

- ・グループ活動は固定した三人の組で取り組むことが多いですが、メンバーを入れ替えることによって様々な声の表現やそれらの重なる響きを体験することができます。

評価

①知 グループ活動時の発言内容やワークシートの記述内容から評価します。「学習の振り返り」から、いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴を、「グループ活動の経験を通して、次回の学習で新たにやってみたいこと」から、音のつなげ方や重ね方の特徴を理解しているかどうか、それぞれ見取りります。

態① 導入の活動の状況における行動観察や発言内容、表現内容から、パートの役割を意識してリズムをつくり、興味をもって音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に取り組もうとしているかを継続して見ていきます。

ステップ2 学級全体で教科書P.23の5種類のリズムを試しながら、パートの役割を意識して8拍のリズムをつくる。

- 1 カトカトーンを活用し、教科書P.23の5種類のリズムの言葉や声の高さを考えながら声で演奏する。



今から流す音楽^{*}を聴きながら、5種類のリズムを声で演奏してみましょう。どんな言葉や声が合うかな。

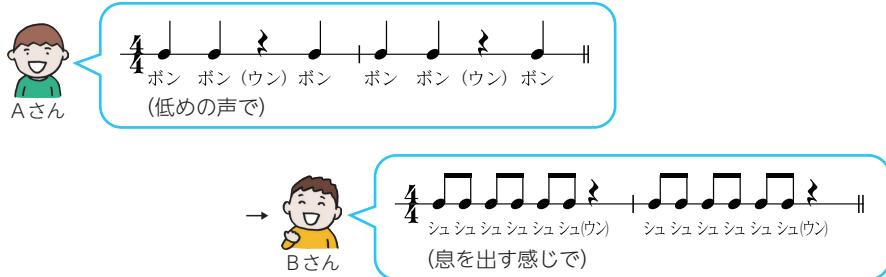
*ステップ2で使用するktkファイル



(タップまたは読み取り)

- 1) リズムに合う言葉を、教科書P.23の<言葉の例>から各自が選び、声の高さを考えて、カトカトーンに合わせて8拍ずつリレーする。
※「ウン」(四分休符)を入れてもよい。

<例>



<カトカトーンを活用する例>



- 2) 子供たちと指導者で話し合いながら、①②のリズムを全体で考えて表現する。



ポイント

- 教科書P.23の5種類のリズムを1拍単位のカードで示したり板書したりしながら、カトカトーンの音源を流して、何度も声に出して試すことが大切です。カトカトーンにはトライアングルのミュート音やウッドブロック、コンガなど様々な音色や高さの音源があるため、声で表現しやすい音を選択することができます。
- 提示されたリズムを指導者と子供たちで声で試しながら表現しておくと、リズムや声の表現に対するイメージが湧きやすく、グループでの音楽づくりに見通しをもつことができます。
- 指導者は、子供の考え方や工夫をカトカトーンの画面上で修正するなどして反映し、学級全体で共有するとよい。

② パートの役割を意識しながら、8拍のリズムをつくる。

1) 指導者が①②のリズムの見本を示し、どのようなリズムをつくるかについて学級全体で見通しをもつ。

[パートの役割]

- ① 8分音符を刻むパート
- ② 2、4拍目を強調するパート
- ③ リズム全体を支えるパート

[ヒント]

- ・使う音符の種類を変えたり増やしたりする。
- ・強調する拍を変える。



教科書P.22の例の①②③のリズムにはこのような役割がありましたね。この役割を意識しながら、①②を先生はこんな風にしてみました。みんなもまねしてみてください。

<例>

①  $\frac{4}{4}$ ツ ツ タ ツ ツクツク ツ ツ タ ツ ツクツク

→  ① $\frac{4}{4}$ ツ ツ タ ツ ツクツク ツ ツ タ ツ ツクツク
学級全体

②  $\frac{4}{4}$ タン タン タン タン

→  ② $\frac{4}{4}$ タン タン タン タン
学級全体



①は4拍目に8分音符より細かいリズムが出てきたね。休符があったから分かりやすかったよ。



②は4分休符と4分音符の順番が3、4拍目で入れ替わったね。同じ音符と休符でも組合せが変わると印象も変わるね。

ポイント

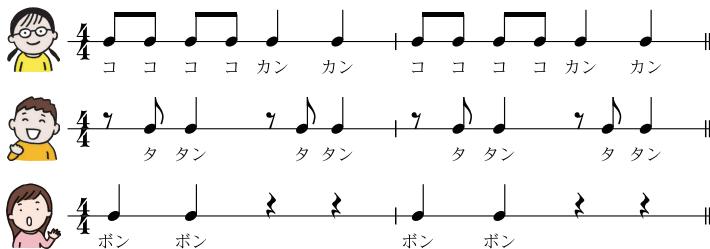
- ・パートの役割を意識できるようにルールとモデルを示すと、発想をもちやすくなります。子供の実態に合った速さを選択することも大切です。

2) 指導者が示した①②のリズムの見本を参考に、①②それぞれの役割を考えてどちらかのリズムをつくり、つなげたり重ねたりして、リズムや声の響きの違いを感じ取る。



今度は①②のリズムを基に、自分でつくった8拍のリズムを友達とペアになり交互につなげたり重ねたりしてみましょう。
いろいろな友達と演奏して、リズムや言葉の違いを聴き合いましょう。

<つくったリズムの例>



<つなげ方と重ね方の例1> ※塗りつぶしている箇所を演奏する。

	1回目	2回目	3回目	4回目

<つなげ方と重ね方の例2> ※塗りつぶしている箇所を演奏する。

	1回目	2回目	3回目	4回目

ポイント

- 教科書P.22の③のリズムの音源をあらかじめ用意しておき、常時鳴らしておきます。

評価

思①一人で考えることが難しい子供には、指導者が一緒に声で演奏したり、学級全体で模倣したリズムを声で演奏したりして支援するようにならう。

ステップ3 三人の組になり、つくったリズムをどのようにつなげたり重ねたりするか試しながら、全体のまとまりを意識した音楽をつくり、発表する。

1 三人の組に分かれて、①②のパートのリズムを考えながらつなげ方や重ね方を決める。



次のルールでグループの音楽をつくりましょう。
思いどおりにつくれているか、二次元コードのコンテンツでつくったリズムを聴いて確認したり、声に出して試したりしながらつくります。
終わりの部分まで演奏できるようになったら、ワークシートに記録しましょう。

[ルール]

- 声の高さ、音色(言葉)のちがいを生かしてつくる。
- パートの役割を意識してつくる。
- ① 8分音符など、細かく刻むリズムのパート
- ② いずれかの拍を強調するパート
- 終わりの部分は右のいずれかを選択する。

終わりの部分 選んで丸をつける。

全員で 一人で

- 4/4 拍子で、各拍子に異なる音符と音高が示されています。
- 4/4 拍子で、各拍子に異なる音符と音高が示されています。
- オリジナルの終わり方

<つなげ方や重ね方の例>

*塗りつぶしている箇所を演奏する。**③**は、教科書P.22の例のリズムを演奏する。

	1回目	2回目	3回目	4回目	終わりの部分
1					
2					
3					



①のリズムには16分音符を入れたいな。でも、ずっと続くと思つぎがで
きそうもないし、休符があったほうが強調できるから1、2拍目だけにす
るね。



せっかく16分音符を入れたのに、ほかのパートと合わせると聴こえにく
くなるね。



違う重ね方にするか、ほかのパートが休みのときに16分音符が入るよう
にしてみたらどうかな。

ポイント

- つなげ方や重ね方のアイディアを掲示しておくと、視覚的に分かりやすくなります。
- 二次元コードのコンテンツでは音色を操作できないため、グループで考えたリズムを確認するために使います。入力が終わったあと、必ず声で試しましょう。
- 巡回の際は、なぜそのつなげ方や重ね方がよいのか理由を聞くことで、子供の曖昧だった思いや意図が明確になります。進み具合が滞っているグループには、何がうまくいっていないのかを確認し、助言したり代案を提示したりします。

評価

思① グループ間を巡回しながら、発言内容、つなげ方や重ね方、終わり方の選び方、つくった音楽の表現内容を見て評価し、どのような考え方でつくったかを記入したワークシートを参考にして読み取ります。

終わりの部分

② つくった音楽を発表し、気付いたことや面白かったところを伝え合う。

<作品例>

	1回目	2回目	3回目	4回目	終わりの部分
1					全員で カ——ン
2					
3					

1 ツクツクツクツクツ
ツクツクツクツクツ
2 カコン
カコン
3 ダン
ダダン
ダン
ダダン



リズムを刻む①から順に減らしていき、4回目は、低い声の③だけ残るようにしました。重ねたときに①の16分音符が目立つように、②は1、2拍目で休むようにしました。だんだん静かになっていくので、終わりの部分では全員で「カ——ン」と弱く演奏して、静かな終わり方にしたことがより伝わるよう工夫しました。

<作品例>



(タップまたは読み取り)

ポイント

- ・「どのような工夫をしたのか」や「思いどおりの発表ができたか」を発表の前後に述べさせることで、聴いている子供にグループの思いや意図が伝わり、どこに注目して聴いたらよいか定まります。
- ・欠席の子供がいた場合は、友達や指導者が代わりに演奏して支援します。つなげ方や重ね方を把握できていない子供がいるときは、ワークシートを見ながら演奏している場所を指さしたり合図を送ったりして発表できるように支援します。

評価

- ②技 発表時の表現内容や子供の発言内容、ワークシートの記述内容から見取ります。表現の完成度の高さではなく、音楽の縦と横との関係を意識したリズムの重ね方になっているか、声の違いを生かして、どのようなまとまりを意識した音楽をつくっているか、友達に言われるままでなく自分の思いや意図をもってつくっているかを見取ることが求められます。

評価ガイド

本学習は、学習指導要領のA表現(3)音楽づくりの(イ)^{*}の指導事項に当たる内容です。高学年の学習では、短時間で学びを深めていくことが求められます。そのためには(ア)の即興的な表現の経験をどれだけ積んでいるかが重要なポイントとなります。本学習のステップ1とステップ2で楽器の音色を意識して音源を声で模倣して表現する活動と、学級全体を中心につなげ方や重ね方を指定する活動が(ア)に相当します。これが本題材における音楽づくりの知識を得る学習として位置付けられます。この活動を基盤としてステップ3のグループ活動を展開します。

Aと評価される子供は、三つのパートのリズムの役割や各パートのつなぎりや重なりの特徴をいち早く理解し、友達の表現をよく聴いてどのようにつなげたり重ねたりするか、グループの音楽にふさわしい終わり方はどれかといった見通しをもって活動に取り組んでいる状況だと思います。

* 音楽づくりのア、イ及びウの各指導事項の(イ)

他題材や他学年との関連

音楽の縦と横との関係は、2年生『3. ドレミで あそぼう』での輪唱や3年生『2. 歌って音の高さをかんじとろう』のパートナーソングなど、歌唱を中心に低学年から扱われています。声を使ったリズムの重なりは、4年生『3. いろいろなリズムを感じ取ろう』でリズム伴奏を楽器で演奏する前に、楽器の音色を再現しながらリズム唱を行う学習活動で経験することもできます。ほかにも、2年生「おまつりの 音楽」、4年生「言葉でリズムアンサンブル」、5年生「打楽器でリズムアンサンブル」で声や言葉を使った音楽づくりの学びを生かしていきます。

本学習で、パートの役割や声の響きの違いを生かしたリズムのつなげ方や重ね方、終わり方を学ぶことは、ほかの領域や分野の学習においても、生きて働く音楽的な見方・考え方となったり、中学校での「音素材や構成を工夫して音楽をつくる学習」でも活用されたりしていくと考えています。

ワークシート記入例

いろいろな音のひびきを味わおう ボイスアンサンブル

*パートの役割を意識しながら、三人の組でボイスアンサンブルをつくりましょう。

[ルール]

- 声の高さ、音色(言葉)のちがいを生かしてつくる。
- パートの役割を意識してつくる。
- ① 8分音符など、細かく刻むリズムのパート
- ② いずれかの拍を強調するパート
- ・ 終わりの部分は右のいずれかを選択する。

終わりの部分

選んで丸をつける。

(全員で) (一人で)



	担当	1回目	2回目	3回目	4回目	終わりの部分
1	みき					
2	こはるさん					
3	たつのすけさん					

8拍分

*グループでつくるときに考えたことや意識したこと、工夫したことを書きましょう。

リズムを刻む①から順に減らしていき、4回目は、低い声の③だけ残るようにしました。重ねたときに①の16分音符が目立つように、②は1、2拍目で休むようにしました。だんだん静かになっていくので、終わりの部分では全員で「カ——ン」と弱く演奏して、静かな終わり方にしたことがより伝わるよう工夫しました。